



被爆八十年ギャラリー

深堀素行氏志願入隊時の中学校同級生からの国旗寄書き

深堀素行氏は、ポンポン船に乗って五島へ行き、11月まで玉之浦の方で世話になった。
その後、長崎で家族と落ち合うことができおじの家（現在の大橋の県営野球場付近）の世話になった。
住居は崩壊していたため、廃材を拾ってバラックを造り、集めた材を盗られて、を繰り返した。

深堀氏は、信教がキリスト教一辺倒というわけではなかったが、十字架を荷物の中に隠し持っていたため、北海道からの復員船への乗船の折、米兵に便宜を図ってもらった経緯もあるなど、様々な縁と幸運が重なって、戦後を生きることとなった。
平成7年8月9日、没。
本人は、志願したにもかかわらず生き残ったことへの苦しさを持ち続けた。